令和３年 10 月４日

保護者　様

磐田市立福田小学校長　佐伯　泰司

家庭における電子端末の活用について

学校では、情報化が加速度的に進展している現在の状況をふまえ、電子端末（タブレット）を、「学習の基盤となる資質・能力」の１つとして考え、自らの学びを深める新しい文房具（ツール）として、授業での積極的な活用を進めています。また、家庭での家庭学習の充実のために活用できるよう、電子端末の持ち帰りも始めています。

その一方で、家庭での電子端末の活用状況や内容に、学年や学級間で差が生じ始めているという課題もみえてきました。

ついては、家庭での電子端末の活用方針及び活用方法について、下記のとおりまとめました。学校の考えを知っていただくとともに、子供の学びが充実するよう御理解と御協力をよろしくお願いします。

記

１　家庭における電子端末の活用方針

・家庭でも電子端末を活用しながら、学校での学びの理解を深めたり、一人一人の興味関心に応じた学習ができるようにしたりすることで、家庭学習の質が向上し、ひいては端末を「学習の一道具」として活用できる子の育成を目指す。

・感染症等により学級や学年を一時的に閉鎖せざるをえない状況が急に起こった場合、同居の御家族が風邪症状等により出席できない子供に対しても、教室と家庭とをつなぎ、学びの機会を保障するための通信手段として、電子端末を有効に活用していく。

・「調べてみたい」「使ってみたい」という子供たちの意欲が高まり、家庭での学習に欠かせない物にするため、電子端末を原則（※）持ち帰る。

（※）家庭の事情、学校から家庭への携行品が通常より多い事情により、電子端末の使用や持ち帰りが困難な場合は、この限りではありません。

２　家庭における活用内容（例）

以下の活用例をもとに、子供の発達段階に応じて学級担任が活用例を紹介し、家庭学習の充実に資するように指導・助言します。

【学習の充実のために】

⑴　自主学習

・eライブラリ

スモールステップで学習内容を理解度に応じて取り組むことができるため、授業で学習したことを復習する時などに活用します。

・電子教材

教科書会社が発行している漢字の練習や算数の問題等を行うことで、基礎学力の定着を図ります。

・読書サイト

国語で学習した物語文の作者が書いた別の作品を読むことで、多くの物語に興味をもたせる。

・プログラミング学習
子供の創造性や問題を筋道立てて解決する力を身に付けさせる。

⑵　技能を高める学習
・音楽科や体育科の活動で行ったことを家庭で再度行う際に、動画で録画して見直すことで、自分の技能を高める。
・家庭科の活動で行ったこと（調理実習・裁縫等）を家庭でも再度試し、画像として保存する。

⑶　調べ学習
各教科、生活科、総合的な学習の時間等で学習した内容を、検索エンジンをとおしてより詳しく調べることで、課題を解決する力を高める。

【学校と家庭をつなぐために】

⑴　オンライン授業
同居の御家族が風邪症状等で出席できない子供を対象に、家庭と学校との連絡調整により、授業の様子を配信することができます。（視聴する教科・時間帯等により、配信できないこともあります。）

⑵　学習予定の管理
学習予定を画像で受け取ることで書き忘れがなくなり、学習用具がそろうようにします。
欠席した場合でも、直接学習予定を配信します。

⑶　遅刻・欠席連絡
急な欠席や、予定があり登校できない場合には、前もって連絡を受け取れます。

３　御家庭へのお願い
・学校にバッテリー（充電器）を置くことも検討しましたが、バッテリー残量が少ない状態で学校に持ってきた結果、電子端末が途中で使用できなくなると、学習に支障が出ることもあります。そのため、フル充電の状態で使用できるよう家庭での充電をお願いします。
・プログラミング学習については、創造性や問題を筋道立てて解決する力を身に付けられるよさがある反面、ゲームをすることが主な目的となり、本来の電子端末の使用目的から逸脱した使い方になってしまうことが懸念されます。
「学習用端末持帰り申請書」のとおり、**端末使用の第一の目的は学習の充実**です。学校でも、活用例や使い方について繰り返し指導をしますが、**御家庭でも使用方法や使用時間について、親子で話し合う機会を設けていただき、有意義な活用となっているか、折に触れて声掛けや見届けをお願いします**。

４　その他
・電子端末の持ち帰りにより、登下校時における子供の量的・体力的な負担が増えないよう、携行品について配慮していきます。
・タブレットの使用及び電子端末での連絡について御不明の点などがありましたら、下記担当までお問い合わせください。

担当　教　　頭
（竹内　克己）
学びづくり部長
（深澤　大輔）
電話　５５－２１２９